

はたらき人

沖繩信徒聖書学校
沖繩聖書神学校

沖繩県那覇市首里石嶺4-356 (〒903)
事務局
聖書学校
☎(098)937-8988
神学校
☎(098)884-4391

献身を志して

牧港バプテスト教会
喜友名 朝順

室へ。ハレルヤ・ハレルヤ、一步登る坂道は戦いでした。いいつくせぬ喜びの二ヶ年。恵みの何と多い事。なぜもっと早く信徒聖書学校で学びえなかったのか。過ぎ去った年月が本当に惜しい思いです。(聖書長老栄光教会)

☆ 平良 善郎

神様はあらゆる先生方を通してイエス・キリストの十字架のすばらしさ、愛、力を教えられ、教会に行くこと、聖書を読むことが私の喜びとなりました。(牧港中央バプテスト教会)

☆ 洲鎌 尚美

「だいが悪い点ですね」。入学試験の面接の時の先生の第一声、よく覚えてます。「入学してから学べばいいですからね」。先生のその言葉に励まされ、恥ずかしい思いは忘れてしまいました。二年間、祈禱院の坂道を登るたびに、今日も何かに出会えるかと期待したものです。その何かとは、御言葉であったり、他のどこでも学ぶことのできない大きな恵みでありました。(那覇バプテスト教会)

ったときまた聖書を読み明かして下さった時、お互いに心が内に燃えたではないか、この二人の弟子の追体験をしている思いをしたものでした。この学びを通して、自分の御言に対する姿勢が大きく変わり主イエスの十字架の偉大さ、尊い犠牲と愛のあらわれであり、御霊によって歩むとは何如なるものかを学びました。第Ⅱテモテ四の二も異端の人間がなっているような伝道者の仕方にもなさいとだけ動いていると思っていました。が、どの様な時代にも正しく御言を取り次ぎ続けなさい。なぜなら聞かぬの良言だけを聞こうとする時代が来るから」というのです。このパウロの勧めと共に、御言を正しく取り次ぐ牧者が今の時代には求められているのだと知りました。これらの学びを通して、主が「静まって私こそ神であることを知れ」という御言を与えて下さった意味が良く解りました。それと同時に正しく御言を取り次ぐ牧師になりたいという強い願いが起こされ、神学校入学の決心を押ししました。

神学校だより

沖繩聖書神学校では三年振り、第五回入学式を挙行することになった。神学校では近年隔年毎の学生受入れを行っているが、あいにく九〇年度は入学年でありながら新入生がいなかった。それだけに今年には二人の新入生を迎え入学式ができることになり久しぶりで活気が満ちた学園となるでしょう。在校生二人と合わせても全校生四人の学校ですから世界で最も小さい。しかしながら一番充実した学びのできる学校でもある。

今年の新入生は男女各一人ずつで、男子は、牧港中央バプテスト教会の推薦で来られた喜友名朝順兄です。兄弟は数年来献身の志を抱いておりまして、諸条件が整わず苦慮していましたが、今春、主からの適切な御言が与えられて入学となりました。女子は具志川福音自由教会推薦の平安座幸恵姉です。現在はC.E.Fで働いておられますが、専門の聖書知識が必要とされ入学しました。入学式は四月十五日(月)午後七時半より祈禱院で行われます。関係者各位の出席を心からお待ちしております。祝福下さいますように。S・F

イエスから目を離さないで!



沖繩信徒聖書学校

校長 国 吉 守

信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。

若葉萌える春、卒業、入学、就職……すべてが希望に燃えています。沖繩信徒聖書学校も去る三月二十四日には十五名の卒業生を送り出し、今、また新学年度の新しい生徒達を迎えております。

これからの二年間の学びが、学生一人ひとりにとって大きな祝福となるために大事なことは、いつも主イエスを目をとめるということです。ヘブル書の記者は「イエスから目を離さないでいなさい」と勧めています。なぜでしょう。イエス様が「信仰の創始者であり、完成者である」からです。信仰はイエスに終始するのです。周りにどのような人物が現れようとどんな出来事が起ろうと主イエスを信仰の導き手であり、完成者で

あり、信仰の中心なのです。あの変貌山において、モーセとエリヤが現われてイエスと語り合った光景に感動したペテロが、「もし、おまじければ、私がここに三つの幕屋を造ります」と語り出した時、雲の中から「これは、わたしの愛する子、わたしはこれを喜ぶ。彼の言うことを聞きなさい」と声がしたのです。

モーセもエリヤも律法と預言者の大事な代表ではあるが、イエスを目指し、イエスに仕える者です。彼らが目を上げて見ると、イエスのほかに、だれも見えなかったのです。

先日、玉城村の主の丘教会の松森善正教師にお会いしましたが、先生は戦時中、「イエスは主なり」との信仰を明確に表明したため特高につかまり、一年七ヶ月の間投獄されたのです。しかし、どんな境遇に会っても先生はただイエ

スを仰ぎ見ておられたのです。厳しい獄中生活の中で初めは「お、松森」と呼び捨てにしていた監守たちが、次第に「松森さん」となり、数か月後には「松森先生」と呼ぶようになったというのです。しかも、戦争が終って釈放されて後にはわざわざ監守が先生を尋ねて、イエスの福音を聞いたということで、すから本当にすばらしいことです。松森先生には、平時も獄中でもイエスのほかはだれも見えなかったのです。八十を迎えた同師のお顔はますますイエス様に生かされている輝きを増したようです。信仰の年輪というのがあるれば、このようなものだろうと思えます。私も二十代から伝道者の端くれとして奉仕をさせて頂いておりますが、イエスを見つめることの意味が漸やくわかったような気がいたします。二〇代のイエス様も、三十代のイエス様もすばらしいが、四十年代・五十代のイエス様がますます大きくなっていくことは誠に幸いです。学べば学ぶほど接すれば接するほど、いよいよ偉大になる無限のイエス様が私たちと共にいて下さる事を感謝する毎日であることを祈ります。

入学おめでとう

九十一年度入学生

- 伊是名美恵子 (那覇バプテスタ)
- 入松田奈美 (沖繩リバイバル)
- 小那覇美智子 (那覇バプテスタ)
- 金城正信 (牧港中央バプテスタ)
- 具志堅周子 (高原ホーリネス)
- 瀬良垣悦子 (星の子学園福音)
- 平良ひとみ (那覇バプテスタ)
- 玉寄長勇 (真栄原キリスト)
- 沼倉智恵子 (那覇バプテスタ)
- 福原保子 (城間ナザレン)
- 宮平道子 (那覇キリスト)
- 与那覇初音 (具志川聖書)

具志堅 周子

十二歳のとき、突然の父の死。それ以来死に対する不安を背おひ心はむなし、喜びがありませんでした。しかしその後、イエス・キリストを救い主と信じ受け入れ、むなしの心、自分の罪深さ、いろいろな不安から解放されました。いま、自分の持っている賜物を本主に主のために、人のため、社会のために生かしたいです。そのため、聖書をもっと深く学び、日々新しい力を与えられて歩みたいと願っています。

(高原ホーリネス教会)

伊是名 美恵子

エホバの証人が伝道のためにやって来て、いろいろ質問され、私はみことばを二・三あげただけで論理的に答えることができませんでした。相手はいえ、こちら

第十六期生十五名卒業

三月二四日(日)午後三時より多くの兄弟が出席して第一六回卒業式が行われました。牧師を助けて、教会での活躍が期待されています。

◎第一六期生

- 糸教 淳 (沖繩第一聖潔)
- 上原善代美 (那覇バプテスタ)
- 親泊文子 ()
- 島尻さとみ ()
- 洲鎌尚美 ()
- 平良善郎 (牧港中央バプテスタ)
- 玉代勢澄子 (石嶺バプテスタ)
- 當銘由盛 (城間ナザレン)
- 當銘 澄 ()

仲本 賢吉

高輪になってからの入学で、最後まで学びとおせるか心配でしたが、背後の祈りと、若い学友たちの励ましに支えられました。また各科目にわたって、懇切な指導を受け、聖書の新たな発見と、奥深さにおどろくともにも多くの知識を得たことも感謝でした。

玉代勢 澄子

多くの先生方いろいろな角度から、み言を学ぶことができ、小さな視野から聖書を見ていた私は、今、心の目が開かれた思い一杯です。讚美し、祈り、神さまの恵みを分かち合うことができることは、大きな喜びです。主を語る、輝く友の顔見ればいつしか私も、心やすけし

(那覇バプテスタ教会)



第16期卒業生

當銘 澄

二年間、まがりなりにも私なりに学ぶことができたこと、学問のなさをなげきつつ宿題のために悪戦苦闘してわけが分からないまま提出したりと大変でしたが、経外書とか偽典といった耳なれないこと、またキリストが地上に生きていたことの実証の学びなども新鮮な思いがしました。入学しなかつたら、これらのことを知らないままクリスチャン生涯を終えるころだったと主人と話し合っています。(城間ナザレン教会)

糸教 淳

退社時間が不規則なため、毎回毎日が闘いでした。祈りました。祈ってゆだねたとき、神様は平安を与えて下さいました。そして今振り返ってみると、それはまさに「勝利」でした。もっと自己学習すれば深い学びができたと思います。反省しています。(沖繩第一聖潔教会)

長山 豊正

六十八歳という年齢的ハンディを背負っての信徒学校への入学には、相当の勇気が必要としたものです。然し入学してみれば、子

や孫のような若い方と机を並べて学ぶことは、実に楽しいものです。聖書や信仰について、系統的に又霊的学びができることを感謝しています。もっと早く気づいておれば、と後悔しています。

(礼邦バプテスタ教会)

城間 清子

途中、家庭の事情で休学。一年後復学。同級生は卒業し途中で止めようかと思つた事もありました。けれども健康も支えられ、家庭の事情も以前よりよくなり学びも祝されました。今までわからなかつ

福里 道雄

聖書学校に入つてとてもよかったことは、教派を超えて多くの兄弟姉妹と交わり、又共に祈り合つたことです。又聖書が以前よりもっともっと身近かに感じる事ができました。大学と聖書学校を両立させることは、とても苦しかったけれども、自分の実になつたと心から

信徒聖書学校第一六期卒業記念

一六会沖繩信徒聖書学校建築積立会に関する趣意書

例年、卒業記念品が贈呈されるのですが、表記の趣意書が理事会に手渡され、大きな感動と喜びにみたまされました。「いつの日か」というビジョンがたいへん手近にたぐり寄せられた思いがします。これが発火点となることを祈ります。

主の御名を讚美申し上げます。さて、私たちが沖繩信徒聖書学校第一六期卒業生は、二年間の学びを終え、これを果立つことになりました。この学校での思い出は各個人それぞれに言い表わすことのできないほど、大きな恵みでありました。神の御心のままに押し出さ

ら思いいます。(天久神の教会)

親泊 文子

最初、一日の仕事を終えての学び又試験のことで、「いやだなあ」と思つた事もありました。しかし、学んでいくうちに、朝夕でも違う自分の心のみにかき又木を見て森を見ていなくなつた自分を知ることがになりました。(那覇バプテスタ教会)

八巻 以世子

七〇キロの巨体を主に押され、ハアハアしながら御言葉の待つ教り出し、ここまで成長してまいりました。これからも、この学校がますます発展していくことを信じ、主の尊いビジョンが必ず成ることを、私たちは信じます。尚、私たちは、この思いが、今後の卒業生、又はこれまでの卒業生と共にあって、多くの祈りと献げものを期待し、これを卒業の記念といたします。

沖繩信徒聖書学校理事会殿
一九九一年三月二四日

沖繩信徒聖書学校
第一六期生一同